

平成 26 年度

農山漁村女性・シニア活動表彰
農山漁村男女共同参画優良活動表彰
活動概要

農山漁村男女共同参画推進協議会

(事務局 一般社団法人農山漁村女性・生活活動支援協会)

平成26年度農山漁村女性・シニア活動表彰

1. 目的

農山漁村における女性や高齢者といった地域の多様な人材は、農山漁村を支え、農山漁村生活の充実と地域経済の活性化に重要な役割を果たしており、農山漁村の6次産業化、食の安全・安心の観点からも、これらの活動が活発になるように支援していく必要がある。

このため、農林水産業及び農山漁村生活並びに農山漁村の活性化に優れた活動の実績をもち、男女共同参画の推進又はいきいきとした高齢者の活動の推進のために積極的に活動している経験豊富な女性・高齢者の個人又は団体を表彰することにより、女性や高齢者といった地域の多様な人材が農山漁村でいきいきと活躍できる環境づくりの推進に資するものとする。

2. 受賞個人・団体

最優秀賞

(農林水産大臣賞)

A. 女性地域社会参画部門

- ・宮城県 栗原市 千葉 優子
- ・大分県 竹田市 安達 由美子

B. 女性起業・経営参画部門

- ・群馬県 沼田市 金子 か柝
- ・鹿児島県 志布志市 かあちゃんべぶんこ会

C. シニア起業・地域活性化部門

- ・岩手県 二戸市 米田 カヨ
- ・兵庫県 小野市 NPO法人ぶらっときすみの

優秀賞

(経営局長賞)

A. 女性地域社会参画部門

- ・福岡県 柳川市 まかせな菜・みつはし
- ・鹿児島県 和泊町 谷山 せい子
- ・沖縄県 名護市 金城 美代子

B. 女性起業・経営参画部門

- ・千葉県 印西市 小山 美千代
- ・長野県 原村 永田 せつ子
- ・熊本県 大津町 ほりだしハウス

C. シニア起業・地域活性化部門

- ・埼玉県 秩父市 岸 重義
- ・長野県 小川村 企業組合 農の花
- ・福岡県 豊前市 豊前川底柿グループ

(林野庁長官賞)

- ・群馬県 藤岡市 新井 和子 (A. 女性地域社会参画部門)

(水産庁長官賞)

- ・茨城県 大洗町 大洗町漁業協同組合女性部 (B. 女性起業・経営参画部門)

優良賞

(全国森林組合連合会長賞)

- ・富山県 富山市 富山地区林業協業体 (C. シニア起業・地域活性化部門)

(全国漁業協同組合連合会長賞)

- ・石川県 輪島市 新木 順子 (A. 女性地域社会参画部門)

(全国農業協同組合中央会長賞)

- ・滋賀県 甲良町 谷口 幸子 (A. 女性地域社会参画部門)

A. 女性地域社会参画部門

千葉 優子 宮城県栗原市

昭和58年以来「生活改善クラブ」活動に参加し、そば打ちやこんにゃく作りの体験指導活動、グリーンツーリズム活動、民泊の受入、農業体験受入へと活動の幅を広げ、平成15年には県の食育推進事業のモデル地区として食育活動推進に貢献。東日本大震災発生時には、各団体と連携し、花山地区として被災者受け入れを行った。花山村生活改善クラブ連絡協議会会長として、村づくり審議委員や地区農業振興協議会委員となり、地域振興や農業振興に参画してきた。こうした活動を経て、平成20年に栗原市初の女性農業委員の一人となり、現在3期目。平成17年には、これまでの活動や民生委員の活動が評価され、栗原市内255行政区の中で唯一の女性の行政区長となり、平成26年3月まで3期9年間務めるなど、女性リーダーとして地域振興及び農村活性化に取り組んでいる。

最優秀賞(農林水産大臣賞)



市民まつりで地元食材の活用促進

A. 女性地域社会参画部門

安達 由美子 大分県竹田市

結婚した昭和54年に祖峰婦人林研グループが発足し、母の勧めで加入。優良木材の技術研修や県の「やる木塾」等学習の機会に恵まれた。現在は、夫、自分、長男と家族経営協定を結び、共に農業・林業に取り組む。女性林研グループ会長として、旧竹田市の農村女性連絡協議会に参画し女性農業委員登用にも取組み、自らも農業委員を3期9年つとめた。これら地域活性化に繋がる林研グループ活動を積極的に行うなどの実績が認められ平成17年から平成25年まで大分県森林審議会委員等に任命され林業参画経験を生かし意見を発信した。現在では平成20年から大分県森林づくり委員、平成25年より大分県女性農業経営士会会長、竹田市女性農業経営士MAPの会会長をつとめ、女性の参画を推進、後押ししている。

最優秀賞(農林水産大臣賞)



大分県植樹祭での植林の様子

B. 女性起業・経営参画部門

金子 か柁 群馬県沼田市

農業後継者として就農し、生活研究グループ員としても活動してきた。稲作、高原野菜栽培の他、豆餅、おかき等の加工販売に取り組む。平成9年に個人経営の農産物直売所「甚内茶屋」を開設し、農産物直売の先駆けとなり、「ふるさとの味・なつかしい味」を伝承した加工品の商品化を進めた。今では、パートを導入し加工量を増やして、直売所8カ所に出荷。JA 利根沼田農産物直売所販売実績加工部門で21年～25年まで連続最優秀賞を受賞した。また、女性起業者10起業で「アグリ起業利根沼田」を作り、研修視察の受入れなどにより、自らの起業経験を伝え、起業全体のレベルアップを図った。平成16年からは、地域の起業ネットワークにも参加。家族経営協定を25年に正式に文書化し締結。夫、本人、子の配偶者との役割分担を明確化し、子の配偶者は認定農業者となった。また、とね農林産物直売所「南郷市場」利用組合の地区委員、会計を努め、現在は副組合長としても活躍中。

最優秀賞(農林水産大臣賞)



「農産物直売所の秋の収穫祭餅つき」

最優秀賞(農林水産大臣賞)

B. 女性起業・経営参画部門

かあちゃんべぶんこ会 鹿児島県志布志市



「全員参加で子牛の発育調査を実施」

平成16年に曾於郡畜産共進会で開催された「女性審査競技会」への参加を機に牛のことをもっと勉強しようと平成16年10月地域の畜産女性で「かあちゃんべぶんこ会」を結成した。発足から現在まで10年間、毎月定例会を開催し、牛の病気への対応方法、薬等の特性に関する学習、セリ市結果に基づく課題検討をするなど、お互いに切磋琢磨しながら学んでいる。毎月の勉強会や子牛育成マニュアル実践のための子牛体測結果検討会を通して技術習得してきた事で、子牛の販売実績が向上。結成当初地区の平均に満たなかった会員の子牛の平均価格や体重が、平成25年には、曾於地区の平均を上回り、女性の発言力向上や経済的自立に繋がった。経営管理も全会員が取り組み、経営実態を把握し経営改善を図っている。また、「全国畜産縦断いきいきネットワーク」、「畜産ネットさつまおこじょ」、農村女性の会「たんぼぼ」などに積極的に関わり、ネットワークを拡げている。

最優秀賞(農林水産大臣賞)

C. シニア起業・地域活性化部門

米田 カヨ 岩手県二戸市



「小学生へのそば打ち体験指導」

昭和36年から生活改善グループに参加し昭和62年～平成6年度まで県連の理事。農産加工の技術、特にそばうち技術が評価され、平成8年に手打ちそばで知事から「食の匠」の認定を受けた。その後、「カシオペア食の技研究会」を立ち上げて初代会長となり、食文化発信活動を行う。昔からの雑穀の安全・安心を、次代を担う若者や子どもたちに伝えたい、そして、農村の良さ、本物の美味しさ、手作りの良さを伝えたいと思い、平成13年に自己資金で、地域の食材を活用する農家レストラン「米田工房そばえ庵」をオープンした。そばや雑穀など地域食材を活用したメニューは大好評。地元小学校での親子料理教室など子ども達への食育活動などを通じて食の伝承活動をつづけている。また、地元産のそばの活用によりそばの作付面積が増加している。

最優秀賞(農林水産大臣賞)

C. シニア起業・地域活性化部門

NPO法人ぶらっときすみの 兵庫県小野市



きすみのから元気と笑顔の発信

平成18年11月きすみの営農組合から独立し「NPO法人ぶらっときすみの」として、再スタート。労災保険・雇用保険を整備し、地域で安心して働く場を提供している。コミュニティ施設「ぶらっときすみの」の運営をはじめ、地域の高齢者を集めて月2回のワイワイ食事会(老人会の食事会)開催、保育園、小学校、老人ホーム等へのそば打ち・巻き寿司体験指導などの世代間交流を積極的に行っている。平成18年度の売上が3,400万円、来客数が23,000人、地元営農組合のそば使用量は3.1tだったが、平成25年度には、売上6,200万円、来客数46,000人、地元そば使用量約8tと、順調に発展。「NPO法人ぶらっときすみの」は、営農組合と相互に協力しながら地域振興に貢献している。また、理事長は、小野市特産品開発委員会の代表や小野市食育推進会議の推進委員を務めるなど、地域の農業や食育を進める重要な役割を担っている。

優秀賞(経営局長賞)

A. 女性地域社会参画部門

まかせな菜・みつはし 福岡県柳川市



「まかせな菜・みつはしのメンバー」

平成13年「女性が自分達で運営し、活動出来る組織を！」と女性農村アドバイザーが中心となり、20代～70代の女性22名で会を結成。農業経営や農産加工の学習会活動や、異業種女性との交流、男女共同参画推進ビジョン啓発大会等実施。会の結成当初から、「心かようまちづくり」の主役になるう！」を活動テーマに、①平成15年には、「中山大藤まつり実行委員会」を主導し、16年からまつりを開催し、地元の景観資源である「大藤」の活用と観光化に貢献。「中山大藤まつり」は現在では10万人が訪れるイベントに成長。②耕作放棄地を活用した農業体験交流による食育活動、学校給食への食材提供。③地元産大豆を使用した味噌加工など幅広い活動を展開中。女性が自ら学び発信、行動することで、男女共同参画の意識醸成や地域活性化を進めている。

A. 女性地域社会参画部門

谷山 せい子 鹿児島県大島郡和泊町

Uターン後、結婚と同時に就農。夫は会社勤務のため、本人が主となりさとうきび生産をスタート。平成8年に和泊町初の女性農業委員となり2期を務める。「働いた証として自分の資産を作りたい」と考え、自分名義の農地を購入し、現在3 haの農地を所有している。これは、島内の女性の資産形成、経済的自立に大きな影響を及ぼした。農業委員として地域の声を聞き、島外の研修等も重ねる中、直売所の建設を決意し、平成11年に、島内ではじめての直売所「ゆうゆう市」を開設し、15年には有人化し加工所も併設するなど、島内での地産地消の推進と地域の高齢者を巻き込んだ活動に繋がっている。また、保育園から高校教諭等まで幅広い農業体験の場も提供している。

優秀賞(経営局長賞)



「ハーベスタでサトウキビ収穫中」

A. 女性地域社会参画部門

金城 美代子 沖縄県名護市

比較的小規模でも所得のあるサヤインゲン栽培に魅力を感じ、経営主として農業を開始。JA地区生産部会長や女性農業者生産グループ「インゲン生産女性の会」の会長等を歴任し、平成17年には沖縄県女性農業者として認定された。平成21年からは生産者とホテル料理人等を直接繋ぐ朝市のリーダーとしても活動。生産活動は、夫との部門分担を行い、家族経営協定を締結し、パートナーシップ農業を実践。農作業の労働環境改善では、「楽タインゲン収穫車」を作成し、沖縄県野菜産地活動表彰の創意工夫部門賞を受賞。また、新規就農者の定着、確保や農業研修生、普及職員の農家研修受け入れなど、農業の担い手育成にも取り組んでいる。さらに、他産業との連携による地産地消の推進、食の安全・安心、食文化の継承など活動の幅も広がっている。

優秀賞(経営局長賞)



生産者と料理人を繋ぐ「山田朝市」

B. 女性起業・経営参画部門

小山 美千代 千葉県印西市

結婚式場ブーケデザイナー、日本橋でのフラワーショップ共同経営を経て、平成8年実家の野菜苗農家に夫と共にUターン就農。その後、フラワーアレンジメント技術を生かして野菜を束ねる「ベジブーケ®」を発案。「ベジブーケ®」を見て楽しむだけでなく、野菜の料理レシピを添付し美味しく食べる提案をするなど生活者としての視点を活かして食育も兼ねた起業活動を展開。平成23年に「ベジブーケ®」の商標登録を取得、「野菜を使ったデザイン・アレンジメントの仕事」をまとめてみたいと思い、平成25年に会社を設立し代表取締役となる。現在、ホテルやブライダル業界への販路を拡大し、順調に経営も向上している。雇用管理においては、スタッフの能力や個性を発揮しやすい環境を整備。

グリーンツーリズムと加工をアレンジした新しいスタイルの女性起業家として、また若手女性農業経営者として、食農教育による農業振興や次世代の担い手育成に活躍している。

優秀賞(経営局長賞)



「四季折々のテーマに合わせたベジブーケ®レッスン」

優秀賞(経営局長賞)

B.女性起業・経営参画部門

永田 せつ子 長野県諏訪郡原村



「家族の協力で地域活動と経営を！」

結婚と同時に農業を始め、昭和61年からセルリー栽培を開始。女性農業者組織の「いきいき原村農業塾」で学ぶ。

平成15年に農村生活マイスターに知事から認定された。平成17年から農業委員を2期、26年からは、農協理事を務めている。平成9年に夫婦間で家族経営協定を締結、22年には、夫婦と長男の協定に更新した。24年からは次男も就農しセルリー中心の経営で発展している。平成24年に女性3人で「原村北部ガールズファーム」という農産物加工グループを結成し、代表をつとめており、女性の視点を生かした新商品の開発・販売に取り組んでいる。また、研修生や農作業体験の受け入れ、食育、特産の農産物を利用した加工品の開発・製造販売など、地域農業の振興にも取り組んでいる。

優秀賞(経営局長賞)

B.女性起業・経営参画部門

ほりだしハウス 熊本県菊池郡大津町



地域住民に愛される「ほりだしハウス」

「自分たちの手で伝統の味を伝えたい、地域の人たちに安全・安心なものを食べてもらいたい」との強い思いを持つJA菊池大津女性部会のメンバーが平成13年に味噌加工をはじめた。平成19年に大津地域特産のからいもの地産地消を目指し、食と農の大切さを若い世代に伝えることを目的に、「ほりだしハウス」が発足。甘藷加工品の販売だけでなく、地域の台所や食卓の機能を果たし、子供達への食育活動や地域住民への料理技術の伝承、弁当や通夜料理の提供などに取り組む。特に、地域の斎場と連携した食の提供など新規の取組みについては、煮しめ等料理の見た目や味等が地域で評判となり、販路拡大と経営安定に繋がっている。

優秀賞(経営局長賞)

C.シニア起業・地域活性化部門

岸 重義 埼玉県秩父市



「夫婦で育むブルーベリー農園」

平成3年のヨーロッパ視察団に参加したことが契機となり、地域をまるで公園のようにきれいにしたい」と考え、土地改良事業を契機に観光農業による地域作りに着目し、土地改良事業推進委員会の委員長として地域の美化整備に尽力。土地改良事業終了後には、全農家が参加した営農組合を設立し組合長となり、ブルーベリーによる観光農業を推進。今では、ブルーベリーが地区内の畑地面積の約40%を占めている。観光農園の経営にあたっては、女性の活躍が不可欠であることから、更なる活躍の場や経営の参画を推進するため、ブルーベリー組合として家族経営協定を強く推進し、全戸が締結した。更に主業農家全戸にエコファーマーの取得を推進。また、秩父市内の菓子店で構成された協議会や観光農園組合と連携するなど、地域の活性化に取り組んでいる。

優秀賞(経営局長賞)

C.シニア起業・地域活性化部門

企業組合農の花 長野県上水内郡小川村



「小川の味を笑顔でお届けします！」

農産物直売所「さんさん市場」に加工品を出荷しようと、平成17年小川村農産物加工組合「農の花」を設立。加工所も完成し平成23年には「企業組合農の花」を設立した。「企業組合農の花」の加工品の中で「おやき」は売上げNO.1となっている。コスト計算や売上げを出すといった経営的な視点で商品化や加工を行っており、「さんさん市場」という直売所があるから加工品が売れ、加工品があるから直売所も売れるといった相乗効果が生まれている。25人のメンバー全員参加で総会が行われて経営内容が全員に明らかとなっていること、毎月理事会を実施して情報の共有を図っていること、家庭等の事情を考慮したローテーションを組んでいることなど、組織内の人間関係は良好で、若いメンバーも徐々に加入してきている。

C. シニア起業・地域活性化部門

豊前川底柿グループ 福岡県豊前市

合河地区の約30人の女性たちで「合河川底柿加工研究グループ」を昭和56年に設立。平成元年に加工場を建設。

「加工技術で地域を活性化する」という理念は今日まで継続。グループ名を「豊前川底柿グループ」に改名し、17人で心機一転農産加工を開始。現在はゆず加工を中心に12人で活動。道の駅が開駅した平成12年以降は、道の駅の直売所との連携の担い手となっている。フランスへ輸出している「ゆずペースト」は、「生果のユズを使いやすいペーストに加工する」という一次加工をグループが一手に担い、地域の食品加工業者と連携し、数多くの特産品を生み出している。30年以上にわたりグループがいきいきと活動を継続するとともに、豊前市等が行う地域振興のための様々な方策を実践する組織として、自らの強みである加工技術を駆使して活動している。

優秀賞(経営局長賞)



「豊前川底柿グループと道の駅駅長」

A. 女性地域社会参画部門

新井 和子 群馬県藤岡市

昭和48年に森林組合に就職。長年にわたる総務経理事務の実績が認められ、平成7年に県内初の女性参事に選任、15年に理事に就任し、18年には県内初、全国でも三番目の女性代表理事組合長に就任した。一貫して「人材は組合の財産である。」との考えから、林業現場の高齢化が進む中で、1ターン者などの若手作業員を雇用し、資格取得や研修参加など人材育成に取り組む。組合長就任後、理事会の活性化と監査機能の充実に取り組む。また、提案型集約化施策に着手し林産事業への事業転換を図った。現場作業員の人材充実、森林施業プランナーの育成、高性能林業機械の導入などに取り組み、組合経営の安定化、組合員サービスの向上に努めている。全国各地から視察の受け入れや講師依頼が絶えないなど注目されており、県や市の審議会や委員会などの委員としても活躍している。

林野庁長官賞



講演会で講師を務める新井氏

B. 女性起業・経営参画部門

大洗町漁業協同組合女性部 茨城県東茨木郡大洗町

大洗町 漁協女性部は、「市場で値のつかない魚が少しでも高値で取引されるようになって欲しい、地元で水揚げされるおいしい魚をもっとたくさんの人に味わってもらいたい、浜が賑わって欲しい、浜のかあちゃんの経験や知識を活かした活動の場を作りたい」との考えから、視察、経営勉強会、接客講習会など様々な準備を行い、平成22年に「かあちゃんの店」(地魚を活用した漁師料理を提供する店)をオープンした。女性部員45名を15名づつ3班に分け、1週間交代で食堂勤務、加工、休みのローテーションを行い、うまく機能している。「かあちゃんの店」に従事した女性部員には人件費が支払われ漁家収入となっている。「かあちゃんの店」の売上は、オープンした平成22年が5,600万円、平成23年が8,000万円、平成24年が8,700万円、平成25年が9,800万円と順調に伸びており、漁業を中心とした地域の活性化が推進されている。

水産庁長官賞



「視察受け入れ中、説明をするかあちゃん」

全国森林組合連合会会長賞

C. シニア起業・地域活性化部門

富山地区林業協業体 富山県富山市



「親子林業教室での間伐指導」

森林所有者等が「自分たちの山を自分たちの手できれいにしよう」をスローガンに、富山地区林業研究グループ協議会を母体とし、平成13年に設立した。メンバーの前職が会社員、気象予報士、鉱山技師と様々で、平均年齢は69歳と、退職後に山仕事を始めた人が多い。毎年、10ha以上の林分において間伐・枝打ちを実施。また、森林管理や間伐材の搬出のために、できることは自分たちで作業道の開設もしている。労働災害防止を一番の重点事項としており、森林整備の実施や今後の計画に役立てようと、林業技術講習会等にも積極的に参加。当協業体の活動を通じて森林整備への必要性が認識され、広葉樹林を含めた里山林整備に取り組む集落が増加。さらに、小学生への林業教室において、スギ人工林の保育や風雪被害林の伐採等の実演を行うなど将来の後継者につながるよう毎年工夫しながら活動している。

全国漁業協同組合連合会会長賞

A. 女性地域社会参画部門

新木 順子 石川県輪島市



「さわら甘露煮」の袋詰め

平成5年から輪島市漁協輪島崎婦人部長に就任、平成7年から石川県漁業協同組合婦人部連合会の副会長、さらに県下1漁協への合併に伴い平成18年に創立された「石川県漁協女性部」の初代部長として、600名を超える部員を牽引し、明るく豊かな漁村づくりを基本方針として女性部活動の活性化に尽力。平成21年度の高齢者事故防止に向けた「ライフガードレディーズ」の発足、環境にやさしい天然石けん「わかしお」の普及などの環境保全活動や魚食普及活動の推進に尽力。地元では、平成21年に水産加工グループ「輪島・海美味工房」を立ち上げ代表に就任し、地元の魚介類の加工販売を中心に、未利用資源の有効利用、学校給食への食材提供等を通じて、水産物の消費拡大に向けた活動を積極的に展開している。平成23年度～25年度まで全国漁協女性部連絡協議会の理事としても活躍。

全国農業協同組合中央会長賞

A. 女性地域社会参画部門

谷口 幸子 滋賀県犬上郡甲良町



「食のつどい～地産地消の食～」にて

平成18年に「食の研究会」を立ち上げ、JAが行うめぐりスクールの講師となり、子ども達に「地産地消・旬」や「保護者のための食の勉強会」を開催するなど食農教育活動に取り組む。JAでホームヘルパーを取得した約150人で平成10年に、助けあい組織「陽だまりの会 たんとん」を設立し初代会長となった。集落でのサロン、3世代交流、ディサービスセンターへのボランティア活動などに取り組んでおり、農村部における農家・組合員の生活の充実に貢献。また、農産物直売所の設立にも参画するなど地域農業の振興にも貢献。現在運営している加工グループでは、伝統料理「ふなずし」や「もち」などの生産販売も順調に増加している。更に、甲良町初の女性農業委員やJA 東びわこの経営管理委員にも就任し、農村部における地域農業に関する取組方針等の決定の場に積極的に参画。

I 次世代を担う若手地域リーダー部門

前田 智恵子 栃木県

経理専門学校を卒業し、他産業従事後、父が経営する「株式会社前田牧場」に平成8年から勤務。BSE 発生の影響により、牛肉価格の下落を経験し、「自ら価格を決め販売したい」、「安全で安心できる肉を直接消費者に届けたい」という信念の下、平成14年からレトルトカレーの委託製造・販売、ミートショップの開店、ファーマーズカフェの開店と「自分に合った農業経営」を開始した。現在、専務取締役として株式会社前田牧場の農業経営に積極的に参画。生産者の顔の見える安心で美味しい牛肉を手ごろな価格で提供する努力を実践、牛肉販売に合わせて、自社生産の米や野菜の販売も行う。近年、赤身肉がブームでホルスタイン肉が注目されつつあり、特に赤身の肉を美味しくするために、「ドライエイジング技術を用いた食肉加工」にも取り組み、そのおいしさが注目されている。更に、農業体験の受入れに積極的に取り組むとともに農業・農村生活の豊かさや暮らし方の伝承、地域人材の活用など幅広く活躍している。

農林水産大臣賞



「ファーマーズカフェにて」

濱田 律子 富山県

平成17年に旅行代理店を退職し、専業農家の夫と結婚、18年から、米作りの様子や米づくりに対する思いを消費者に伝えたいと就農した。就農後は、出産、育児という家庭での役割を果たす傍ら、経営面では水稻の育苗作業、経営管理、米の販売管理などの部門を担い、平成24年に家族経営協定を締結し「認定農業者」でもある。現在は経営面積12haで、水稻と大麦を生産し、米は直接、消費者に販売している。

ホームページによるPR活動、消費者へ届ける通信紙、米の受注管理と発送などを、育児と農作業の合間をぬって行ってきた。とりわけ、消費者にお米の正しい情報を伝えようと、自らが農産物検査員の資格、米食味鑑定士の資格を取得し、米に関する知識とスキルを高める努力を行ってきた。さらに、現在は、県内の農、食、環境に興味のある、農業者、シェフ、主婦等の有志で構成された「富がえりのレシピ」実行委員会にも加わり、異業種との情報交換や食に関する情報提供を行うなど活動範囲は市内から県内へと広がっている。

農林水産副大臣賞



東京のマルシェにも出店！

湯の口 久仁子 鹿児島県

看護師を経て、平成12年に夫と共に就農。オクラ、そらまめ、スナップエンドウなどを栽培。14年から年々活動を拡げており、HP作成、インターネットによる農産物販売、出前授業、農業体験受け入れなど、夫と共に「自分達らしい今までにない新しい農業のスタイル」を実践。平成21年に「株式会社アグリスタイル」を設立、社員として新規就農者を積極的に受け入れ、4名が就農した。独自のネットワークを構築しながら、異業種組織「Joylinkいぶすき」を設立し副会長として活躍。また、平成22年には、食育体験活動として、手づくりで調理施設や体験農場を整備した食育の拠点施設「かえるの学校」を開校した。開校と同時に、「指宿グリーンツーリズム協議会」を立ち上げ、事例収集や地域内ネットワークの構築、人材育成研修、体験プログラムの作成等に取り組む。更に、観光協会と連携し、生産者の代表として各種委員（美プロジェクト委員、指宿ヘルスツーリズム検討会委員、いぶすき海洋浴体験ツアー“きら旅”実行委員）を務めるなど、観光分野の活動にも取り組んでいる。

農林水産大臣政務官賞



「食育の拠点施設かえるの学校にて」

II 組織における女性登用部門

農林水産大臣賞

岩手町農業委員会 岩手県



町議会議長に要望する松本会長（左）

岩手町農業委員会では、町の「いわてまち男女共同参画プラン」を踏まえ、女性農業委員の増加を図るため、「岩手町農業女性連携会議」への活動支援等を通じて女性が農業委員選挙に出やすい環境づくりに努めてきた。また、「一期議会推薦を受けたら二期目は公選に出ること」を目標に掲げ取り組んだ結果、第22回農業委員統一選挙後には、選挙委員がそれまでの3名から5名となり、選任委員と合わせて6名と、県内一の女性農業委員数となるとともに、女性農業委員の割合も32%となり、さらに、岩手県内初の女性の農業委員会会長も誕生した。農業委員の取り組みにおいても、女性農業委員の意見・提言が農業委員会の事業計画及び活動に反映され、各種事業が行われており、家族経営協定締結の促進や農業委員研修の実施などにおいて着実な成果に結びついている。

農林水産副大臣賞

越智今治農業協同組合 愛媛県



「JA女子大学」地域とJAの活性化を

JA運営における女性参画の目標達成に向け、地区別の目標を決め組織的に取り組むことで目標を達成するとともにその取り組み方法は、県内JAの模範となっている。地域活動については、女性部、助けあい組織、女子大学の運営等により、地域女性の活躍の場づくりを行っている。JAの職場としても、常勤役員への登用や女性ライン管理職登用等や教育の機会を与えている。農業部門における女性参画については、大型直売所「さいさいきて屋」の51%が女性出荷者であるほか、JA出資型農業生産法人((株)ファーム咲創)の研修生1号の女性は、現在JA管内で就農し、地域農業の担い手として活動している。

【参画状況】

- ・正組合員 11,099 名の内 3,394 名が女性 (30.6%)、・総代 508 名の内 109 名が女性 (21.5%)
- ・地区検討委員 207 名の内 43 名が女性 (20.7%)、・経営管理委員 23 名の内 2 名が女性
- ・監事 5 名の内 1 名が女性 (常勤監事)、・管理職 121 名の内 9 名が女性 (7.4%)

農林水産大臣政務官賞

加須地区女性農業者連絡協議会 埼玉県



「男女共同参画研修会で講師を囲み」

加須地区女性農業者連絡協議会は平成5年に発足し、現在は、7組織59名が加入している。会員は米、施設野菜、果樹等を生産する専業農家が大部分である。会の活動としては、農業情勢に合わせて研修会の開催、活動情報交換を行っている。また、活動に際しては管内3市、農協等と連携し活動の理解を得ている。会の会員は、県及び3市、農協における審議会委員への登用、農業委員での活躍が進んでいる。平成26年には、「ほくさい農業協同組合の理事」に女性4人が初めて登用され、うち1人が、当協議会会員から選出された。また、会員3人が法人内の役職(取締役、専務)となっているほか、ふるさとの味伝承士を中心に10人が7起業をたちあげ、6次産業化に取り組み、いがまんじゅう、かきもち等30品目を商品化しており、地域の直売所の重要商品として欠かせない存在となっている。

第28回農山漁村女性の日について

昭和63年3月10日を初回として取組んできた農山漁村女性の日は、今年で28回目となります。

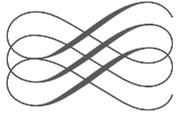
従来、全国農山漁村女性8団体が一同に会して記念の集いを開催してきましたが、26年度は、平成27年3月第一週を農山漁村女性の日ウィークとし、8団体それぞれのセミナーやフォーラムにおいて、農山漁村女性の日の趣旨を踏まえて取組むこととなりました。このたび、農山漁村女性の日のキャッチフレーズと宣言を、8団体の総意としてまとめあげましたのでお知らせします。

「輝く」を本物に！

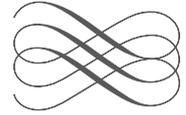
— 私も・あなたも・地域も —

*** 農山漁村女性の日の趣旨 ***

農山漁村女性の役割を正しく認識し、適正な評価への気運を高め、女性の能力の一層の活用を促進することを目的とする「農山漁村女性の日」の趣旨を、農山漁村女性をはじめ広く社会一般に対して周知し、もって農山漁村女性の社会参画を促進し、農山漁村女性の地位の向上と農林水産業・農山漁村の発展を図る。



第28回 農山漁村女性の日 宣言



私たち農山漁村に働く女性は、農林水産業という職業に魅力と可能性を持ち、日本全体に安全で安心できる食を提供し、気持ちの良い住まいや環境を生み出しています。更に、農山漁村地域が賑やかさをを持って発展していくことを願っています。

農山漁村のさらなる発展のためには、地域で暮らす人々が相互に理解しあい、役割と責任を担うことが必要であることから、私たちは女性の経営参画と社会参画を目指し、男女共同参画社会の構築に向けて取り組めます。

そして引き続き、東日本大震災からの復興に向けて取り組んでいる農山漁村の仲間を全力で支援していきます。

－ 農林水産業を魅力ある職業として実践し、次代に継承します

私たちが職業に自信を持ち、内外に魅力を発信し、若い世代が農林水産業を職業として選択するように努めます。

－ 農山漁村文化の振興及び都市との連携を進めます

農山漁村で働く女性の知識・感性、食の大切さ、伝統文化を次世代に伝え、安全・安心な国産食材の消費拡大に努めます。また、世界に認められた「和食」を始めとする農山漁村の文化に誇りを持ち、都市部との交流を強化します。

－ 女性の社会参画を一層促進します

地域社会における様々な方針決定の場に、多くの女性が参画出来る場づくりを進めます。また、農山漁村の関係団体と連携しつつ、政策・方針決定に関わる各種団体役員・委員への就任、促進などに取り組めます。

－ 女性農林漁業者の声を発信します

農林水産政策に一層の関心を持ち、私たち女性農林漁業者の声を発信していきます。

－ 自然環境を守り育てる運動を進めます

環境破壊防止のため、自然を守り育てる運動を農山漁村のエコ活動として展開し、地域が一体となり地球環境の保全に努めます。

－ 女性の就業を活性化します

すべての女性が主体的に就業出来るよう、技術、知識の習得、子育て、介護の社会的な支援、家事と仕事を両立するための環境づくり、世代を超えた交流づくりを強化します。

－ 東日本大震災からの復興を支援します

東日本大震災からの復興を実現するため、地域・組織が一丸となって、ともに取り組めます。

「第28回農山漁村女性の日」主催団体一同

全国女性農業委員ネットワーク
JA全国女性組織協議会
全国生活研究グループ連絡協議会
全国酪農青年女性会議

全国林業研究グループ連絡協議会女性会議
全国漁協女性部連絡協議会
全国女性農業経営者会議
(一社)農山漁村女性・生活活動支援協会

平成26年度農山漁村男女共同参画優良活動表彰

1. 目的

農山漁村において女性は、農業就業人口の過半を占めているとともに、起業活動等により、地域において活躍している。しかしながら、農業委員や農協役員等に占める女性の割合は低く、地域の指導的立場への女性の登用は進んでいない。

政府として、「2020年までに指導的地位に女性が占める割合を少なくとも30%程度」とすることを目指しており、他分野に比べ遅れている農山漁村において、女性の登用を進めることが急務である。

このため、次世代を担う地域リーダーとなることが見込まれている若手女性及び女性の参画を積極的に推進している組織等を表彰することにより、農山漁村における男女共同参画の取組の推進に資するものとする。

2. 受賞個人・組織

I. 次世代を担う若手地域リーダー部門

農林水産大臣賞

・栃木県 大田原市 前田 智恵子

農林水産副大臣賞

・富山県 黒部市 濱田 律子

農林水産大臣政務官賞

・鹿児島県 指宿市 湯ノ口 久仁子

II. 組織における女性登用部門

農林水産大臣賞

・岩手県 岩手町 岩手町農業委員会

農林水産副大臣賞

・愛媛県 今治市 越智今治農業協同組合

農林水産大臣政務官賞

・埼玉県 行田市 加須地区女性農業者連絡協議会

平成 27 年 3 月 4 日発行

【発行】

農山漁村男女共同参画推進協議会

事務局：一般社団法人 **農山漁村女性・生活活動支援協会**

〒105-0011 東京都港区芝公園 2-6-8 日本女子会館 4 階

TEL：03-5777-5383 FAX：03-5777-5385

MAIL：weli@weli.or.jp URL：http://www.weli.or.jp

「農山漁村男女共同参画推進協議会」とは

農山漁村女性の社会参画及び経営参画を推進し、男女共同参画社会の実現に取り組む任意団体です。

8つの全国団体で構成されています。(事務局：(一社)農山漁村女性・生活活動支援協会)

【全国農業会議所、JA 全国女性組織協議会、(一社)全国農業改良普及支援協会、

全国生活研究グループ連絡協議会、全国女性農業経営者会議、

(一社)農山漁村女性・生活活動支援協会、全国漁協女性部連絡協議会、全国林業研究グループ連絡協議会女性会議】